

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 白石市立大平小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-0217

宮城県白石市大平森合字権現山 1

E-mail info@oodaira-e.shiroishi-c.ed.jp

Website http://www.oodaira-e.shiroishi-c.ed.jp/

児童数 男子 61 名 女子 42 名 合計 103 名

児童の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「災害を知ろう・自分の身を守ろう」を活動テーマとして、ESD を防災教育の一環と捉え、ESD の実践を通して復興を自らの課題として考えられる力の育成を目標とした。

具体的には、復興支援活動を柱に、①山元町のいちご栽培農家のお手伝い活動、②被災地見学を行った。

また、環境教育の一環として、総合的な学習の時間に、地域のシンボルである逆さケヤキについて、地域の方の協力を得ながら学習を深める活動をした。

① 山元町のいちご栽培農家のお手伝い活動

3 学年から 6 学年までの児童で、山元町のいちご栽培農家を訪問した。この農家は東日本大震災で被災したものの、再びいちご栽培を行っており、5 年前から、毎年訪問させていただき、親睦を深めている。子ども達は事前に震災にまつわる学習を各学年で行い、活動後にも御礼の手紙を書く活動や、学習のまとめなどを総合的な学習の時間の一環として行った。

訪問の際に震災時や現在の復興の様子などについてのお話も伺った。

②被災地見学

山元町教育委員会と連携し、受け入れ態勢を整えていただき、被災したころの姿が残る施設の見学や、町での復興の取り組みなどのお話などを聞かせていただいている。本年度は、旧中浜小学校の校舎を見学し、未だ尚生々しく残る津波の爪あとを見学させていただいた。資料なども用意していただき、校舎の1階部分をそれぞれの説明を受けながら見学して周った。

③逆さケヤキ探訪

学区内にある山にあるケヤキの木について、毎年5年生の総合的な学習の時間で学習をしている。地域のケヤキの会の方の協力を得て、山を登って実際にケヤキの木を見に行ったり、ケヤキの木にまつわるお話を聞いたりして、地域のシンボルであるケヤキの木について理解を深めた。



①の写真
(ランナー取りをする児童)



②の写真
(旧中浜小学校で説明を聞く児童)



③の写真
(逆さケヤキの前で)



③の写真
(木の高さの計り方を教えてもらう児童)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

未来へのきずな (宮城県防災教育副読本)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の一環として教育課程に位置づけて取り組んでいる。復興支援活動については「災害を知ろう・自分の身を守ろう」という単元名で、各学年ごとに単元計画を作り、例年工夫改善を加えながら取り組んでいる。地震や津波について調べたことや、お手伝い活動や被災地見学をした感想などをまとめて発表するなどの活動をした。何年にもわたって復興支援活動に参加している児童もいるので、学習内容が重複しないよう計画的に学習している。また、逆さケヤキについては「逆さケヤキについて」という単元名で、実際に山に登ってケヤキを見に行ったり、地域の方に聞いて分かったことなどを様々な形で発表する機会を設けた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

復興支援活動に関しては、学年の壁を越えて、参加する全ての学年で集会を行い学習を深めた。各学年の学級担任が協力、連携をして活動に取り組んでいる。また、復興支援活動に関連して行う防災教育は、学年で内容が重ならないように年間計画を立てている。逆さケヤキについては、地域の方の協力もあり、長年の間、毎年5年生で学習することが継続されている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

復興支援活動の質の向上のために、来年度からは参加する学年を狭める予定である。少人数での訪問にすることで、山元町のいちご栽培農家の方との直接的な関わりをより増やす計画である。震災当時やその後の復興の様子について話を聞いたり、質問したりする時間が持てるとより深い関わりがもてるのではないか。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校ホームページや、学校だより、学級だよりなどで、活動の様子をお知らせし、保護者や地域の方などにも活動内容を発信している。活動の様子や子ども達の感想などを載せている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

被災地見学をするにあたり、山元町教育委員会の生涯学習課と連携を図った。実際に、当日に被災地を案内していただき、被災地の震災当時の様子について詳しくお話を伺った。来年度は山元町の防災センターを訪問する予定である。逆さケヤキに関しては地域の方々に構成されているケヤキの会の方々の協力をいただいて活動をしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は特に実施していない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

復興支援活動は、児童が被災地の現状を人事としてとらえるのではなく、自分たちにできることについて考えるよい機会となっている。同じ宮城県で起きた災害として、身近にとらえ、防災の意識を高めさせていきたい。また、逆さケヤキの活動を通しては、自分の住む地域にある自然の素晴らしさや地域の方の協力などについて実感することができる体験活動である。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

例年行っている復興支援活動を、来年も継続して行う。来年度は、いちご栽培農家のお手伝いと、山元町に新しく整備された防災センターの見学を予定している。参加する学年を例年より減らし、少ない人数で参加することで、いちご栽培農家の方とより深いかわりができることを期待している。

逆さケヤキについては、今後も引き続き、ケヤキを見に山に登る活動や、地域の方にお話を聞く活動を予定している。他にもその地域の方の協力によって行われている田植えや稲刈り、脱穀などの稲に関する学習も引き続き行い、収穫したもち米を使って餅つきなどを行う児童会の祭りも開催される予定である。